

白神社と原爆

白神社は爆心地からわずか 500 メートルしか離れていなかったため、白神社の木造の社殿は 1945 年 8 月 6 日の原爆投下で完全に破壊されました。それからわずか数ヶ月後には、臨時の礼拝の場として、大急ぎで新たな社殿が建設されました。より耐久性のある社殿がコンクリート造りで 1989 年に再建されましたが、境内にはまだ原爆の爆発の傷が残っています。

白神社の正面の鳥居の前には、小さな柱が立っています。これは当時の鳥居で現在も立っている唯一の残骸です。神社を守る狛犬の石像も当時のものが残っています。部分的に修復されていますが、原爆投下による傷がまだはっきりと見て取れます。神社の隣には立派な楠が植わっています。この木も原爆投下を生き延びました。この木の前には大きな石の灯籠があります。しかし、その横の灯籠とは異なり、こちらには当時の火袋（炎を灯す箱）が残っていません。原爆投下で破壊されたからです。

平和記念公園や近くの平和大通りとは異なり、白神社には 1945 年よりずっと昔に遡る歴史がありますが、この神社は今でも原爆投下の物言わぬ目撃者として佇んでいます。